

『横須賀市のSTI（性感染症）の発生頻度は？』

横須賀市では保健所と医師会が協力してSTIの発生頻度を委員会の報告書として平成24年（2012年）から毎年度に市のホームページに掲載しています（当院のホームページにも転載しています：STIの項参照）。

これは横須賀市内の47の医療機関（泌尿器科、婦人科、皮膚科など）からのアンケート調査を基にした統計です。主なSTI（梅毒、クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマなど）の発生頻度を疾患別、年齢別、男女別など表やグラフで分かりやすくまとめた報告書ですので各年の特徴や傾向がよくわかります。また、厚生労働省が行っている全国の900以上の医療機関による定点調査（当院も定点医療機関になっています）との比較もできます。

最近（5年）の傾向では全国ではクラミジア感染症が最も多く、次いで淋菌感染症が多く、これらに比べると少数ながら梅毒が増えていること、横須賀市では男女の性器ヘルペスが増加傾向にあること、また、20代30代でのクラミジア感染症が男女ともに最多ですが10代でも増えてきていることなどがわかります。また、以前は風俗店での感染が多かったのですが、最近は友人（セックスパートナー）からの感染が増えていることがわかります。実臨床では不特定多数を相手にする、いわゆる

ゆきずりの感染が増えている印象です。コロナ感染で自粛していた2年ほど風俗店での感染は減っていましたが反動で増えてこないかと心配しています。

当院は繁華街の真ん中という場所柄、STIの患者さんが毎日受診されます。若い方が多いですが、時には高齢男性もいらっしゃいます。最近、印象に残っている患者さんですが、梅毒を婚約者に感染させてしまって婚約解消になった20代女性、妻としか行為がないので検査結果が絶対におかしいといいはるクラミジア感染の30代男性、学生服で通院してくる淋菌感染症のカップル、何十年ぶりに行った風俗店でクラミジアと淋菌をもらってきてしまって反省しきりな60代男性。などなどです。

STIは今のところ減少する兆しはないようですね。

